

# 城東区社会福祉

発行所  
社会福祉法人  
大阪市城東区社会福祉協議会  
発行人  
駒井信義  
編集  
広報福祉部会  
大阪府城東区中央3丁目4番29号  
城東区役所内  
電話(932)1351  
通字は駒井区社協会長

## 高齢化が進むわが町でも 老人問題はみんなの老後問題

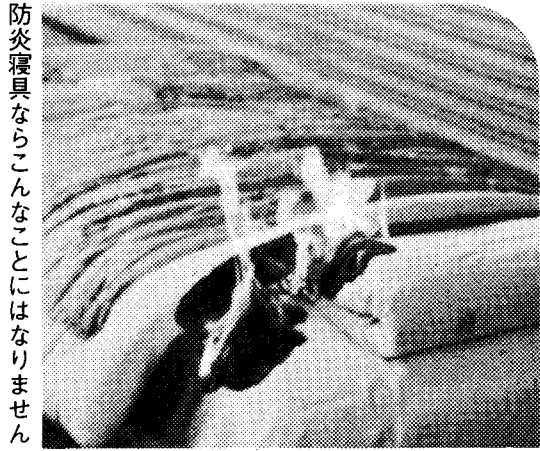
七月、厚生省統計情報 えると報じられた。部から出された昭和六十 城東区社会福祉協議会 年日本人の平均寿命は、では、これまで毎年の敬 男子が前年より〇・三歳 老対策の基礎データとし 伸びて七四・八四歳、女 て八十歳以上の老人数を 子も前年よりさらに〇・ 調査してきた。その年次 二八歳伸びて八〇・四六 データは別表のとおりで 歳。わが国はまさに世界 ある。区内人口が二二 一の長寿国となっている。十年余り十五万七千人前 九月の敬老月間をむか 後でほぼ横ばいであるこ えるにあたって、厚生省 とからすれば、当区も漸 次高齢化の歩みを着実に 統計では、百歳以上の老 進めているといえる。 人が千八百五十一人を数 また、厚生省人口問題

### 国内の動き

研究所から長期人口予測 図表でも明らかになよう にして明らかにされてい 年をおって高齢化、核家 族化が進んでいる。の老人人口比率は、四年 後の一九九〇年には十人 に一人の割合に、さらに三 十年後の二〇二〇年には 四人に一人が老人となる としている。思えば大変 な時代というよりは、大 問わらず、行財政が著しく ひびくっている中で、政 治経済のありかた、費用 負担のありかたが真剣に 検討されつつある。こう わが国の昨今の社会は

## お年寄を火災から守るために 今一度寝具類の点検を

城東消防署



昭和六十年中に大阪市 内で火災で亡くなられた 方は五十三人ですが、こ のうちお年寄り(六十五 歳以上)は九人、一七パ ーセントと非常に高い比 率を占めています。 お年寄りが亡くなられ た火災原因の主なもの は、暖房器具とたばこです。 特に寝たきりのお年寄 りの喫煙は、着衣、寝具に 火が着いても自分では消 せない場合が多いので、 基本的には寝具類の防炎

化をできる限り進め、火 災の起きない生活環境を 整えてあげることが大切 です。 (四)お年寄りの灰皿は、 大きく重いものにし、水 をはたいておく。 (五)ストーブなどの暖房 器具は、燃えやすいもの からできるだけ離して使 用。 城東消防署としまして は、毎年、秋の全国火災 予防運動期間に身体の不 自由なお年寄り宅の防火 訪問を行います。 (一)お年寄りは、出入口 や窓に近い所など逃げや すい所で寝てもらおう。 (二)カーテンや寝具類は、 防炎処理されたものを使 う。 (三)お年寄りを残して外 出するときは、火の元点 検を確実にし、隣近所に 声をかけ頼んでおく。

した動きは福祉の面にも 大きな影響を及ぼし、既 存の諸制度施策について の抜本的な見直しを余儀 無くしている。言いかえ れば、目前に迫りつつあ る二十一世紀社会、超高 齢社会を人々が幸せに生 き抜くためのわが国社会 全体のありかたが喫緊の 課題として国民みんなの 前に投げ出され、その解 決策、対応策の確立を求 められているのである。 政府は「人生八十年時 代」にふさわしい経済社 会システムを構築するた め、本年六月に「長寿社 会対策大綱」を閣議決定 し、雇用・所得保障・健 康・福祉・学習・社会参 加・住宅・生活環境など 広範囲にわたって今後と るべき政策方向を明らか にした。

わが国の老年人口の推移

	1970年 (45年)	1975年 (50年)	1980年 (55年)	1984年 (59年)	1990年 (65年)	2000年 (75年)
65歳以上の人口	万人 739.3	万人 886.5	万人 1064.7	万人 1195.6	万人 1429.0	万人 1994.3
総人口に 対する割合	% 7.1	% 7.9	% 9.1	% 9.9	% 11.6	% 15.6
参考資料	「国勢調査」 (総理府統計局)		「昭和59年10月 現在推計人口」 (総務庁統計局)		「日本の将来推計人口」 (厚生省人口問題研究所)	

城東区80歳以上老人数の推移

年度	53	55	57	59	61
80歳以上 人数	1,514	1,738	2,061	2,301	2,569
2年間増減		+224	+323	+240	+268

## 老後に備えて 地域での取組を

今日、老人問題は、わ れわれの問題としてとり 入れているのでしょうか。 今からわずか二十年先、 三十年先のわが国社会が 超高齢社会にすっぽり包 まれてしまうことを思う とき、私たち社会福祉協 議会としてはいかなる活 動をしていかなければな らないのかを、今こそ真 剣に検討し、早急に具体 的な活動を推し進めてい かなければならないので はないか。

さあ大変だ。そこへも つてきてお年寄りが多く なる二十一世紀には、世 界一の老人国だ。四人に 一人が老人だ。老人ホー ムの建設はとも老人の 増加に追いつけない。ま してや病弱な老人の収容 施設はもつと不足してい る。寝たきり老人対策、 痴呆老人対策は、同居老 人の問題と、この山積の 問題に対する苦肉の策が

## 投稿 老人福祉に思う

辻 佐一郎 (民生委員)

落語の話ではないが、「在宅福祉」の強化に他 お年寄りのイメージはと えば「ご隠居様」仕事 は第一線を離れ、住いの 離れに隠居所を建て、悠 々自適の生活をし、自分 の趣味の世界に生き、家 族に大事にされ面倒を見 てもらった恵まれた境遇に あるのが老人であると数 年前までは常識でした。 しかし時代は変わり社会 環境が変化し、核家族化 が進むにつれ、いつの間 にか、このようなお年寄 りの境遇は夢のまた夢と なり家族に養われてもら うどころか、自分で生計 を立て、自分で身の回り を見なければいけない時 代となってきました。 さあ大変だ。そこへも つてきてお年寄りが多く なる二十一世紀には、世 界一の老人国だ。四人に 一人が老人だ。老人ホー ムの建設はとも老人の 増加に追いつけない。ま してや病弱な老人の収容 施設はもつと不足してい る。寝たきり老人対策、 痴呆老人対策は、同居老 人の問題と、この山積の 問題に対する苦肉の策が



「年を、とらない人」 「年を気にしない人」積 極的に何事にも参加でき る人」これが老人問題を 老人自身で解決する近道 であるとともに、これか らくるべき二十一世紀に 立派なバラ色の老人社会 の建設に力をあわせ、取 り組もうではありません か。





# 地域に広がる喜びの声

## 城東老人ホームの入浴サービス

「寝たきりのお年寄りにとって、お風呂に入っている時が身も心もゆつくりできる時です。心待ちにした月一回のお風呂に入った時、湯上りの上気したお年寄りの顔は最高の笑顔に変わります。」

### 「のべ一千人の入浴」

城東老人ホームが、在宅の寝たきり老人を対象に入浴サービスを開始して七年、のべ一千人の入浴を実施してきました。この事業を開始したきっかけは七年前の七月に逆のぼります。当時城東老人ホームでは地域の主婦に呼びかけ寝たきり・ひとり暮らし老人を定期的に訪問していました。すみれ地区を訪問していたあるボランティアが、ぜひホームのお風呂に入れてほしい人がいると必死に訴えてきました。当時Tさんは九十七歳の男性で寝たきりのひとり暮らし、夏になると四十度になる四畳半のプレハブ

### 「ええあんなばいや」

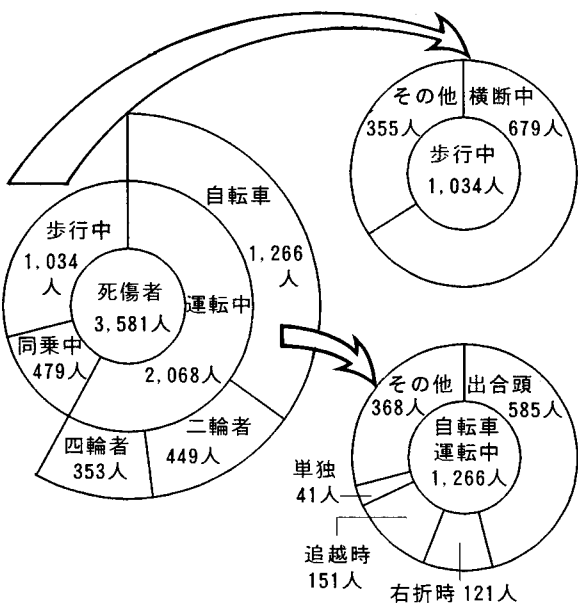
「病気になる前は毎日入るほどのお風呂好きでしたのでとても喜んでいました」とお風呂に入るとみんな心もなごみます。また「普段は表情ひとつつかえずに寝ているだけですが入浴すると表情もなごみます」「お風呂に入った日は夜中おこされることがなくぐっすり寝られます」「寝たきりなので入浴する時が唯一外出できる時なので楽しみです」と家族にとってもお風呂が地域の方々で実現できたらいいと思っています。城東老人ホームでは、

### 増えています！

#### 高年者の交通事故

大阪府警の調べでは、故で、歩行中の事故は約七割が道路横断中の事故です。昭和六十年中、死傷者数は三千五百八十八人で、十年前と比べて一・四倍になっています。ここで、信号機のある事故の種類としては、自転車運転中と歩行中の事故が、全体の三分の二を占めています。自転車運転中の事故で、約半数が出合頭の事故は防げます。

—昭和60年中の高年者の事故—



### 「みんなで力を合わせて」

城東老人ホームでは入浴サービスの他に、すみれ老人ボランティアセンターの方々の力もかかっています。「夏場はせめて月一回入れてもらえたらいいですね」という声も出ています。こんなやさやかな願いを、さまざまな地域福祉事業を実施しています。地域

### 老人福祉センターでは

#### 気軽にどうぞ

福祉相談室おとしより一〇番	相談内容(S604/61.3)	九九件
入所相談	一時預り	四九件
介護相談	その他	三七件
問い合わせ		二二件
その他		一〇件

城東区老人福祉センターでは、六十歳以上の地域のお年寄りを対象に、老人問題・健康相談などの各種の相談事業をはじめ、レクリエーションなど、次のような事業を行っています。

#### 編集後記

本紙の前号「青少年福祉特集号」は、九月開催の大阪府社会福祉大会で「企画賞」を受けました。「キラッと光るものがある」との選評に気がよくし、今号編集にも頑張りました。

## 喜ばれる経験と能力

### 大阪市シルバー人材センター

定年退職後等に、もう一度就職してフルタイム働くことは望まないが、短期間・短時間働く機会を得たい、それによって追加的な収入を得たいという健康で働く意欲のある高齢者が増えています。シルバー人材センターは、こうしたニーズに応えるための新しい就業システムで全国各地に設置され、

大阪市では、昭和五十九年二月に設立されました。市内居住のおおむね六十歳以上の方が、自分の希望する仕事を登録してセンターの会員となり、センターは、受託した仕事の内容や条件等によりその仕事に適した会員を選び、仕事の発注者に派遣するものです。このシステムのおおき

な特徴は、センターの会員という資格の下で仕事をこなすこと、自分の希望する仕事に登録してセンターの会員となり、センターは、受託した仕事の内容や条件等によりその仕事に適した会員を選び、仕事の発注者に派遣するものです。

ただ、特に七十歳以上の会員の方についての就業の機会が六十歳台の方に比べて少なく、その意欲と能力を發揮されにくいという現状があり、センターでも発注者の方々の一層のご理解を得られるよう働きかけをしています。

大阪市の六十歳以上の方は人口の約十五%、約三十九万人おられます。ひとりでも多くの方が会員になって労働能力を發揮し、豊かで積極的な老



「老人問題はみんなの老後問題」として茶の間の話題にしていたけれど、願っています。